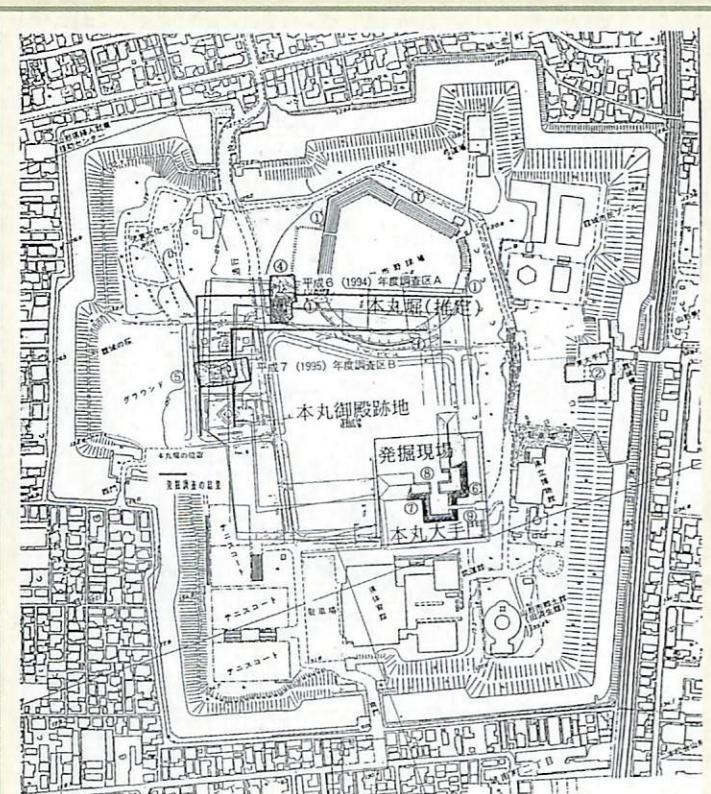


本丸一文字門発掘調査

二ノ丸東大手門の復原につづき、本丸を復原整備することにし、平成3年(1991)には本丸内堀の地中レーダー探査を実施し、平成8年からは本丸一文字門石垣、大手橋及び本丸堀の発掘調査を行っています。



山形城跡の発掘調査

①	本丸北不明門	霞城公園内夜間照明建設工事に伴う発掘調査	1979(昭和54)年
②	二ノ丸東大手門	史跡 山形城二ノ丸東大手門復原工事(史跡整備)に伴う発掘調査	1986(昭和61)年
③	本丸堀(北堀)	一文字門石垣のための地下探査レーダー調査	1991(平成3)年
④	本丸堀(北堀)	史跡 山形城跡本丸堀復原(史跡整備)に伴う発掘調査	1994(平成6)年
⑤	本丸堀(西堀)	史跡 山形城跡本丸堀復原(史跡整備)に伴う発掘調査	1995(平成7)年
⑥	本丸大手門及び大手橋	史跡 山形城跡本丸堀復原(史跡整備)に伴う発掘調査	1996(平成8)年
⑦	本丸大手門	史跡 山形城跡本丸堀復原(史跡整備)に伴う発掘調査	1997(平成9)年
⑧	本丸大手門	史跡 山形城跡本丸堀復原(史跡整備)に伴う発掘調査	1998(平成10)年
⑨	本丸大手門及び大手橋	史跡 山形城跡本丸堀復原(史跡整備)に伴う発掘調査	1999(平成11)年

調査区概要図

(想定されている本丸堀の位置と発掘調査箇所を示しています。)



基本計画平面図

お問い合わせ先

発注者：山形市都市開発部公園緑地課

〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 (023) 641-1212 (代)

施工者：三井住友建設㈱東北支店、山形建設㈱



霞城公園整備の経緯

- 1948(昭和23年) 旧山形城跡のうち、18.7haを霞城公園(運動公園)として都市計画決定。山形市が有償で大蔵省より払い下げを受ける。
- 1978(昭和53年) 市制施行90周年記念事業の一つとして、霞城公園整備事業が計画される。(西堀の湛水、二ノ丸東大手門の建設、体育施設の移転、公園内の整備)
- 1981(昭和56年) 霞城公園整備事業の1つとして、二ノ丸西堀が湛水される。総合公園として、都市計画決定の変更(33.5ha)。
- 1984(昭和59年) 「霞城公園整備計画」を策定。
- 1986(昭和61年) 国の史跡に指定される。33.40ha。
- 1987(昭和62年) 二ノ丸東大手門復原工事に着手。
- 1991(平成3年) 二ノ丸東大手門完成。
「霞城公園整備推進検討会」発足。
本丸遺構調査(レーダー探査)実施。
- 1994(平成6年)
()
本丸内堀発掘調査実施。
- 1995(平成7年)
- 1996(平成8年) 「霞城公園整備実施計画書」作成。
- 1996(平成8年) 本丸一文字門発掘調査実施(継続中)。
- 1998(平成10年) 本丸一文字門石垣復原工事に着手。
- 2003(平成15年) 本丸一文字門石垣復原工事完成。
- 2004(平成17年) 本丸一文字門大手橋復原工事完成。

史跡 山形城跡 本丸一文字門石垣復原



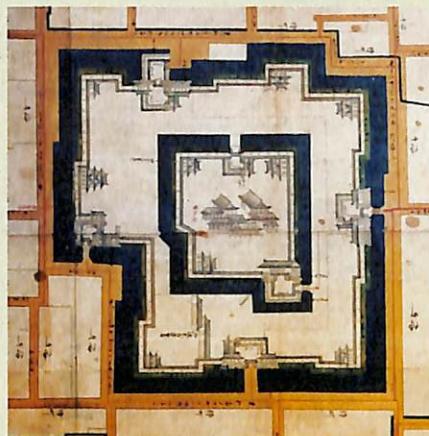
山形城の沿革

山形城は、南北朝時代の1356年斯波兼頼が築城したのが始まりとされます。斯波兼頼は入部後、最上氏と名乗り代々ここに居城しましたが、11代義光は1592年頃から拡張整備を行いました。山形城には天守閣はありませんでしたが、本丸四隅の櫓や二ノ丸の三重櫓は立派なものであったといわれています。このころが山形城の最盛期です。

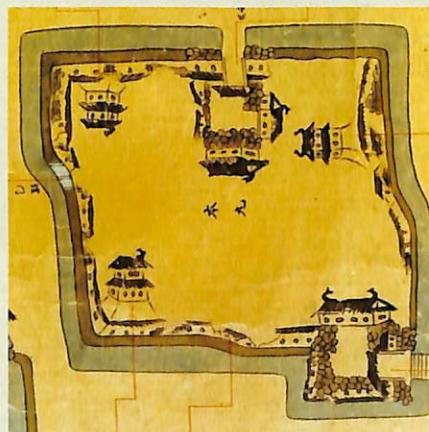
その後鳥居忠政が1623年に大改修ましたが、鳥居氏以降領主の交替が頻繁に行われ、その都度領地も削減され、城内もしだいに荒れていったと伝えられています。

山形城略年表

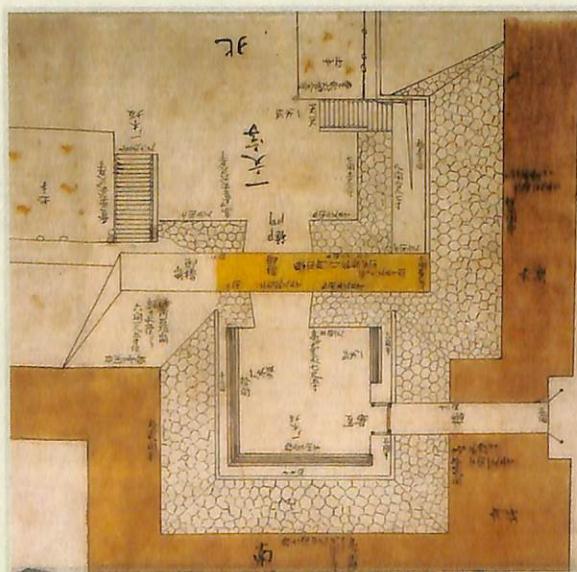
1356 (延文元年)	斯波兼頼が、羽州探題として出羽国最上郡山形に入部したという。
1357 (延文2年)	斯波兼頼により山形城築城されたという。
1592 (文禄元年)	最上義光、肥前国名護屋に参陣。名護屋より、山形城修築工事について指示する。この修築により、3重の堀を持つ広大な山形城と城下町が整備されたという。
1599 (慶長4年)	本丸が火災にあう。
1600 (慶長5年)	直江兼続、山形攻略を始め、長谷堂城を攻撃。このとき、山形城は霞により見えなかったといわれ、以後霞ヶ城と称される。
1622 (元和8年)	最上家転封。城内の建物は解体撤去され、山形城は公儀直普請により修築された。山形城には鳥居忠政が陸奥磐城平より入部した。(24万石)
1623 (元和9年)	馬見ヶ崎川の洪水により外堀が破損。鳥居氏により大規模な修築が行われる。
1668 (寛文8年)	奥平昌能が宇都宮より入部する。このころ三重櫓が取り払われる。
1684 (貞享元年)	本丸一文字門櫓が崩れ、修復される。
1686 (貞享3年)	本丸の一文字門櫓が再び崩れ、修復される。
1726 (享保11年)	大雪により城内の各櫓が破損。
1746 (延享3年)	松平乗佑が下総佐倉より入部する。 松平氏は二ノ丸城外に居住し、城内の荒廃が進んだという。また、修理費がないため三ノ丸大手門、搦手門を破壊した。
1764 (明和元年)	幕府は二ノ丸、三ノ丸を破却し、三の丸は田畠となつた。このころ、三ノ丸大手門、搦手門が再建されたが、幕末には再び修築された。
1767 (明和4年)	秋元涼朝が武藏川越より入部する。
1768 (明和5年)	秋元氏は三ノ丸に家臣の家屋と「新御殿」を建設し、居住した。
1783 (天明3年)	秋元永朝、本丸、二ノ丸の修復工事を始める。
1792 (寛政4年)	秋元永朝、7月山形城本丸大手橋周辺の作事が行われる。 03年度出土木製部材の墨書き
1794 (寛政6年)	秋元永朝、5月山形城本丸北不明門石垣普請が石工信濃屋 片岡仁兵衛により行われる。 市内個人所蔵文書
1851 (嘉永4年)	出火により、新御殿が全焼。
1875 (明治8年)	城内の建物・櫓は全て破却された。
1896 (明治29年)	市が二ノ丸内を買収し、第8師団第32連隊設置のため國に寄付した。 連隊設置にあたり、残存土塁の破却、水田化していた二ノ丸堀の一部復旧など、敷地の造成が行われた。



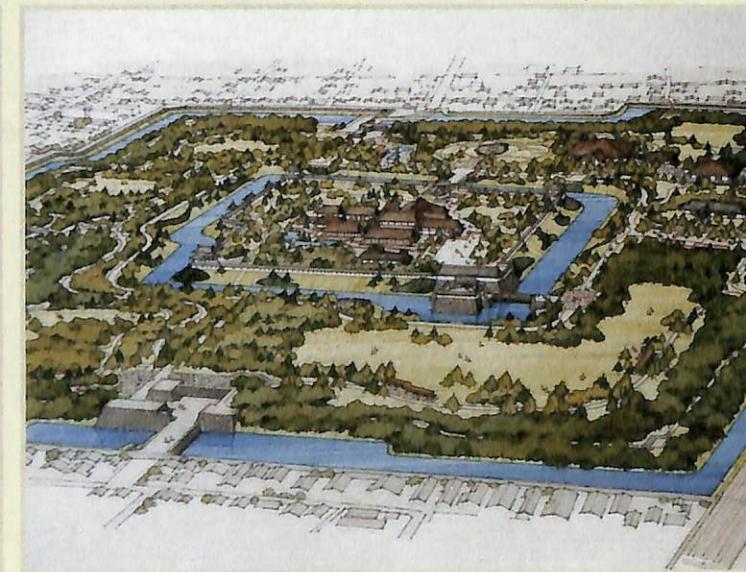
「正保城絵図」
(結城松平氏時代1644~1648頃)
国立公文書館所蔵



「山形城修復絵図」
(秋元氏時代1767~1845)
山形市立第一小学校所蔵



「山形城本丸一文字門平面図」
(秋元氏時代1767~1845) 山形市柏川家所蔵



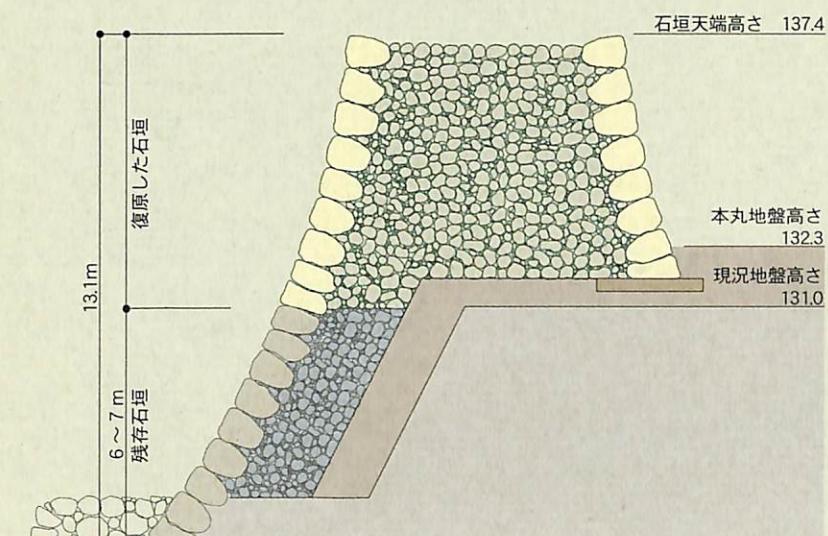
想像復原パース

石垣復原工事

本丸一文字門の石垣は、秋元氏時代 (1767~1845) の山形城本丸一文字門平面図を参考にして復原を行いました。残存石垣については、石面をよく清掃した後、石面に番号を付け、写真測量を行い、石垣姿図を作成しました。石垣の撤去は、前面に足場を組立てた後、石垣一段毎に背面土砂の掘削、裏込栗石の撤去、石垣の撤去を繰り返して行いました。石垣の復原は、石垣姿図を参考に元の位置に据付けました。割れや風化の著しい石垣は、替りに新しい石を加工して使用しました。

新しく積み上げる石垣については、堀から掘り出された石や新しい石を使用して復原しました。

1. 石の加工 打込接(うちこみはぎ)
2. 石の積み方 乱積及び布積、角部については算木積
3. 石積面積・重量 約2,500m²・5,000t (一石約800kg、隅石は一石約1,200kg)
4. 石の種類 蔵王山系の安山岩、購入石は月山の安山岩を使用



石垣断面図



残存石垣全景



①着工前



②石面清掃



③足場組立



④石垣撤去



⑤刻印調査



⑥石材加工



⑦裏込栗石工



⑧隅石据付



⑨石垣復原工事現場全景